（１）頭髪・服装の指導に生かす

頭髪・服装の乱れに関わる問題は，生徒指導の長年の課題であるが，その現象は多様化してきている。そのため，学校では明確な規準を設け，それを教職員間で徹底するとともに，指導の意義や方法について，児童生徒及び保護者にあらかじめ説明しておく必要がある。

これまで頭髪・服装の違反についての指導は，基本的な生活規律の一つとして，全体への指導を踏まえて，違反した児童生徒への個別の指導を中心に行われてきた。一般的に，服装や頭髪の乱れという現象は他の生活面の乱れにもつながっている場合が多い。そうした生活面と照らし合わせて気になる場合や，指導を重ねても改善が見られない場合などは，さらに保護者との連携を密にして指導を進め，課題を克服していけるよう努力してきた。また，これまで学校で行われてきた頭髪や服装についての取組みには，身だしなみに関わる点検活動や保健指導的側面（染色等は髪を痛めるなど）からのアプローチや，進路指導的側面（入試等の面接試験など）からのアプローチなども改善を目指す手段として行われてきた。しかし，こうした表に現れている事象にとらわれた指導となると，児童生徒の心に響くものとはなりにくく，形は改善されたとしても，「根っこ」を変えるには至らないと考える。児童生徒とじっくりと話し合い，児童生徒の心に触れ，児童生徒の「心の叫び」に耳を傾ける教職員の姿勢が必要である。

そこで道徳の時間では，頭髪・服装違反といった行動としてあらわれる，人間の持つ内面の問題を探っていくことを大切にしたい。また，課題を克服する力となるよう展望をもったものにしていきたい。頭髪・服装の違反は，その時どきの流行やファッションのみを追いかけ変化してきているようにも見えるが，学校や地域の中での帰属意識が持てていなかったり，自分に対する自信や誇りが見いだせなかったり，家族や友人との人間関係がうまくいかないことからくる不安やストレスが背景にある場合も多い。その他にも，理由や背景はさまざまであると思われるが，いずれの場合にせよ規則を破ることに表れた，これら児童生徒の心のサインをしっかり受け止めていくことが重要である。内面から自己を見つめ，やればできるのだという達成感を育てることや，集団の一員として，まわりのことも視野にいれながら行動していけるような心を育てていく時間となるようにしていきたい。

集団への帰属意識を高め，児童生徒が自律的・主体的によりよい生活を実現していこうとする力を育てていくためにも，これまで以上に生徒指導と道徳の時間とを関連させながら，取組みを進めていくことが大切である。